

(別添 3)

社会福祉士国家試験問題の事例問題のうち 「良問」と考えられる問題等について

社会福祉士国家試験問題の事例問題のうち、「良問」と考えられる問題について、すべての事例問題に共通するポイントは以下の通りと考えられる。

1. 事例を読まなければ選択肢の正誤を判断できない問題
2. 事例内容と支援の段階に沿った適切または優先すべき対応のあり方を考えさせる問題
3. ソーシャルワークの理論やアプローチ等に関する知識を、実際の事例に照らして、正誤を判断する問題
4. ソーシャルワーカーの支援として、問題設定が今日的（タイムリー）であり、現実的である問題
5. 事例や選択肢の字数・分量が適切な問題
6. 選択肢の表現に統一性がある問題

以上のポイントから、実際に「良問」と考えられる事例を実際の国家試験の問題から、以下の通り示す。

「1.」に関する良問と考えられる事例問題

【第30回社会福祉士国家試験 問題97 「相談援助の基盤と専門職」】

問題 97 事例を読んで、母子生活支援施設の母子支援員(社会福祉士)の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(31歳女性)とBちゃん(7歳 女児)は、市の福祉事務所を通じて、母子生活支援施設に入所している。Aさんは、夫の暴力に耐え切れず、仕事を辞め。Bちゃんを連れて逃げてきた。AさんとBちゃんの母子関係は良いが、Bちゃんには精神的に不安定な面がある。このため、Bちゃんは学校を休みがちである。Aさんは夫と離婚し、新たな仕事を見つけ、Bちゃんとの安定した生活を得たいという。

- 1 Bちゃんへの個別対応は。Bちゃんが通う学校の学級担任に一任する。
- 2 Bちゃんの治療のため、児童相談所に児童自立支援施設への入所を依頼する。
- 3 Aさんの就業に当たって、最寄りの母子家庭等就業・自立支援センターに関する情報を提供し、その利用の可能性についてAさんと検討する。
- 4 Aさんの退職の理由を詳細に聞くため、元の仕事を訪問する。
- 5 夫が勤務する会社に連絡し、配偶者暴力の背景となる要因がないか確認する。

解答 3

選択肢の内容が、母親、父親、子どもおよび関係機関への対応まで含む幅広いものであり、家族それぞれへの対応や関係機関も視野に入れた対応を考えさせる出題となっている。事例を読んで状況を理解しなければ、選択肢の正誤を判断できない良問といえる。

「1.」に関する好ましくない事例問題①

【第 29 回社会福祉士国家試験 問題 95 「相談援助の基盤と専門職」】

問題 95 事例を読んで、この場面における B 介護支援専門員(社会福祉士)による C さんへの発言として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

[事例]

C さん(82 歳 女性)は、自宅で夫 (85 歳)と二人暮らしをしている。C さんは認知症を患っているが、ある程度の判断能力はある。これまで C さんの身の回りの世話は夫が行ってきたが、夫が持病を悪化させ半年ほど入院することになった。夫は、C さんを近隣の施設へ入所させる意向がある。C さん夫婦には息 子がいるが、遠方に住んでいるため、今のままでは C さんの身の回りの世話をすることはできない。息子は、C さんを自分のところに引き取り、同居することを望んでいる。そこで、C さんと話し合うことになった。

- 1 「C さんは今後の暮らしをどのようになさりたいですか」
- 2 「施設に入所してはいかがでしょう」
- 3 「息子さんと同居することが良いと思います」
- 4 「C さんが一人で決めるべきです」
- 5 「私(B 介護支援専門員)が決めます」

解答 1

5 つの選択肢の言葉を比べると、本人の意向を聞こうとしているのは 1 つだけで、他 4 つは B 介護支援専門員(社会福祉士)の意見の押しつけになっているため、事例を読まずとも簡単に正答を導き出すことができる。

「1.」に関する好ましくない事例問題②

【第 32 回社会福祉士国家試験 問題 54 「社会保障」】

問題 54 事例を読んで、子育て支援などに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

会社員のDさん（32歳、男性）と自営業を営むEさん（30歳、女性）の夫婦は、間もなく第1子の出産予定日を迎えようとしている。Dさんは、厚生年金と健康保険の被保険者で、Eさんは国民年金と国民健康保険の被保険者である。

- 1 Eさんは、「産前産後期間」の間も国民年金の保険料を支払わなければならない。
- 2 Eさんが出産したときは、国民健康保険から出産育児一時金が支払われる。
- 3 Dさんが育児休業を取得する場合、健康保険から育児休業給付金が支給される。
- 4 Dさん夫妻の第1子の医療保険給付の一部負担は、義務教育就学前までは3割である。
- 5 Dさん夫妻の第1子が3歳に満たない期間については、月額2万円の児童手当が給付される。

（注）「産前産後期間」とは、出産予定日又は出産日が属する月の前月から4か月間を指す。

解答 2

事例内容を読まずとも、1～5のすべてについて選択肢の内容だけで正誤の判断が可能である。

「2.」に関する良問と考えられる事例問題

【第31回社会福祉士国家試験 問題106 「相談援助の理論と方法」】

問題106 事例を読んで、Q市にある地域包括支援センターのC社会福祉士が行う援助過程において、この段階における対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

大震災から年月が経過し、V災害復興住宅では高齢化が進み、生活課題も多様化し、孤立してしまう住民が多い。そのため、V災害復興住宅内での住民同士の助け合い活動はほとんど行われていない。ある日、この地域を担当するD民生委員がC社会福祉士の下に相談に訪れ、「先週発生した孤立死のことが悔やまれ、民生委員として無力さを痛感している。もう二度とこのようなケースが起きないように一緒に考えてくれないか」と訴えた。

- 1 V災害復興住宅周辺の住民も一緒に、孤立死の背景について話し合う機会を持つ。
- 2 見守り支援活動をV災害復興住宅内の住民に任せる。
- 3 V災害復興住宅内の掲示板に見守り支援を受けたい人を募るチラシを掲示して様子を見る。
- 4 V災害復興住宅の全戸を対象とした訪問活動を行う。
- 5 D民生委員の負担に配慮し、担当地域を変更することを提案する。

解答 1・4

地域包括支援センターの社会福祉士による「この段階における」対応として適切なものを2つ選ぶ問題で、判断や行為を問う問題（事例内容と支援の段階に沿った適切な、優先すべき対応のあり方を考えさせる問題）となっている。

「2.」に関する好ましくない事例問題

【第 31 回社会福祉士国家試験 問題 96 「相談援助の基盤と専門職」】

問題 96 事例を読んで、Fスクールソーシャルワーカー（社会福祉士）のチームアプローチに基づいた対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

小学生のG君（9歳、男児）は、同じクラスの児童から、「気持ち悪い」と言われたり、仲間はずれにされたりするなどのいじめを受けていた。G君の友人から学級担任に、「G君がいじめられている」と心配が伝えられたため、学級担任が休み時間や放課後の様子を観察したところ、いじめの事実が明らかになった。学級担任は校長に報告し、その後、教育委員会からFスクールソーシャルワーカーが派遣されることになった。

- 1 いじめた児童の保護者に連絡し、G君への謝罪を求める。
- 2 警察署に通報し、いじめた児童を指導するために援助を求める。
- 3 加害児童を他校に転校させるよう管理職に助言する。
- 4 児童が相談しやすい環境づくりについて学級担任の相談に乗る。
- 5 情報収集とアセスメントをもとに、校内ケース会議で対応を協議する。

解答 4・5

事例内容と支援の段階に沿った適切または優先すべき対応のあり方を考えさせる問題になっておらず、設問文に「チームアプローチに基づいた対応」とあるので、「チームで支援するということ」を念頭におけば、事例を読まずとも適切な選択肢2つを判断することができる。

「3.」に関する良問と考えられる事例問題

【第31回社会福祉士国家試験 問題99 「相談援助の理論と方法」】

問題99 事例を読んで、外国籍住民を支援する団体のKソーシャルワーカー（社会福祉士）が、エコロジカルアプローチの視点から今後行う取組として、より適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

P国籍のLさん（30歳、女性）は半年前に来日した。Mさんなど一部の日本人住民に挨拶をしても無視されることが度々あり、Lさんは疎外感を覚えている。LさんはMさんなど近隣の日本人住民と交流しながら住み続けたいと考えているが、Lさん自身はMさんらに何も伝えることができない。このためLさんは、Kソーシャルワーカーに相談した。

- 1 Lさんの了解を得て、Lさんに対する思いについてMさんらに尋ねる。
- 2 この地区の民生委員に問題解決・再発防止の仕組み作りを任せる。
- 3 日本人住民との良好な関係作りのためにLさんができることを、一緒に考える。
- 4 疎外感緩和のため、在日P国人団体の集まりに参加するように助言する。
- 5 Lさんに、Mさんらに対する言動を思い返してもらい、もし不適切な言動をしたことがあればやめるように助言する。

解答 1・3

外国籍の住民を支援するソーシャルワーカーが「エコロジカルアプローチ」の視点から今後行う取り組みとして適切なものを選ぶ問題で、ソーシャルワークの理論やアプローチ等に関する知識を、実際の事例に照らして活用することで、正解を判断する良問である（単に知識を問うような問題にはなっていない）。

「3.」に関する好ましくない事例問題

【第31回社会福祉士国家試験 問題101 「相談援助の理論と方法」】

問題101 事例を読んで、この場面におけるナラティブ・アプローチに基づくA生活相談員（社会福祉士）の応答として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Bさん（85歳、男性）は、特別養護老人ホームに入所している。妻は10年前に亡くなっており、子どももいないため身寄りが無い。Bさんは、話し相手もおらず、部屋に閉じ籠もりがちである。ある時、A生活相談員に対して、「生きていても仕方がない。早くお迎えがくればいいのに」と語った。

- 1 「そのような悲しいことは言わないでください」
- 2 「何があなたをそのような気持ちにさせるのか教えてください」
- 3 「奥さんの死がBさんの孤独を深めているのかもしれませんが」
- 4 「グループ活動に積極的に参加するといいと思います」
- 5 「この先、きっといいこともありますよ」

解答 2

事例とナラティブ・アプローチを照らさずとも、ナラティブの意味（語り、物語）を知っておけば、事例を読まずとも正答を判断できる。

「4.」に関する良問と考えられる事例問題

【第 33 回社会福祉士国家試験 問題 117 「相談援助の理論と方法」】

問題 117 事例を読んで、P市社会福祉協議会のKソーシャルワーカー（社会福祉士）によるソーシャルアクションの実践として、適切なものを 2 つ選びなさい。

〔事 例〕

Kソーシャルワーカーは、以前から面識のあったLさん（32歳）から相談を受けた。Lさんの同性のパートナーであるMさん（35歳）が、残業が続くつらい日々の中、職場で倒れて病院に救急搬送され、緊急手術を受けた。Lさんは、すぐに病院に駆けつけ面会しようとしたが、病院からは、「家族ではないため面会はできない」と伝えられた。「自分たちの関係が社会的に認められず、何かあったときに助け合うこともできない」とLさんは涙ながらに訴えた。Kソーシャルワーカーは上司と相談し、LGBTへの偏見や差別を解消し、地域住民の理解を深めるために、支援を行うことにした。

- 1 地域住民の反発を避け、円滑に医療を受けることを優先し、まずは病院の規則のとおりにするようアドバイスをする。
- 2 LGBTを支援する団体と連携し、同じような経験をした人の意見交換の場をつくる。
- 3 病院内の退院支援に向けたカンファレンスに参加し、Mさんの今後の地域生活に必要な医療的ケアについて検討する。
- 4 Mさんの職場に対し、長時間労働が常態化する職場環境の改善を求めて交渉する。
- 5 他市の「同性パートナーシップ証明」発行の取組について、地域住民を対象とした学習会を開催する。

解答 2・5

LGBTをめぐる対応は、法制度が十分に整備されていない状況にあって、社会福祉士として対象者の権利擁護に十分に配慮しながら取り組む必要がある。その意味で、問題設定の今日的（タイムリー）な点を評価できる。また、LGBTへの偏見や差別を解消し、地域住民の理解を深めるために、「上司とも相談し」（個人の活動ではなく、機関としての対応が明記されているのも良い）、地域で地道に、現実的に行うソーシャルアクションのあり方を問う内容となっている。選択肢も、事例を読んだうえで、この組織において現段階で何が適切であり、可能であるのかを判断する問題となっている。

「5.」「6.」に関する良問と考えられる事例問題

【第 32 回社会福祉士国家試験 問題 78 「権利擁護と成年後見制度」】

問題 78 事例を読んで、次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Aさんは、判断能力が低下している状況で販売業者のU社に騙され、50万円の価値しかない商品をU社から100万円で購入する旨の売買契約書に署名捺印した。U社は、Aさんに代金100万円の支払を請求している。

- 1 Aさんにおいて、その商品と同じ価値の商品をもう一つ引き渡すよう請求する余地はない。
- 2 Aさんにおいて、消費者契約法上、Aさんの誤認を理由とする売買契約の取消しをする余地はない。
- 3 Aさんにおいて、商品が引き渡されるまでは、代金の支払を拒む余地はない。
- 4 Aさんにおいて、U社の詐欺を理由とする売買契約の取消しをする余地はない。
- 5 Aさんにおいて、契約当時、意思能力を有しなかったとして、売買契約の無効を主張する余地はない

解答 1

事例、選択肢の分量が適切で、選択肢に統一性がある。また事例を読まなければ、各選択肢の正誤を判断できない問題である。

「5.」「6.」に関する好ましくない事例問題

【第33回社会福祉士 問題67 「低所得者に対する支援と生活保護制度」】

問題 67 事例を読んで、S市福祉事務所のM生活保護現業員の支援に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Aさん(30歳、女性)は、会社員として働いていた3年前に乳がんと診断された。仕事をしながら治療を受けることが困難であったため会社を退職し、現在、生活保護を受給し、S市福祉事務所のM生活保護現業員による支援を受けている。約1年間の治療を経て、現在はパートタイムの仕事ができる程度に体調が回復しており、検診の結果、「軽労働」が可能と診断された。そこでAさんは、体調に合わせて働ける職場での再就職を希望している。

- 1 日常生活自立を図るため、Aさんに被保護者就労準備支援事業の利用を促す。
- 2 Aさんの同意を得て、公共職業安定所(ハローワーク)と福祉事務所が連携した就労支援チームによる支援を行う。
- 3 Aさんの同意を得て、公共職業安定所(ハローワーク)に配置される就職支援コーディネーターに職業相談・職業紹介を依頼する。
- 4 Aさんの同意を得て、福祉事務所に配置される就職支援ナビゲーターに公共職業安定所(ハローワーク)と連携した支援を依頼する。
- 5 Aさんの同意を得て、S市において生活困窮者自立相談支援事業を受託している社会福祉協議会に、被保護者就労支援を依頼する。

解答 2

事例の記述は適切であるが、選択肢問題の記述が長く、結果的に本問題の全体が長くなってしまっている。選択肢問題の表現に統一感がなく、「Aさんの同意を得て」が選択肢2・3・4・5についているが、選択肢1にはない。また、語尾につく行動を示す表現が選択肢1は「促す」、選択肢2は「行う」、選択肢3・4・5は「依頼する」とばらついており、受験生にはわかりにくくなる可能性がある。

※精神保健福祉士国家試験の「事例問題」との関係性について

これまで挙げてきた「事例問題」の「良問」と考えられるポイントや好ましくないと考えられる問題については、精神保健福祉士の「事例問題」においても同様と考えられる。一方、両国家試験の出題では「事例問題」という共通用語を使いながらも出題形式が異なっている状況がある。

例えば、

- ・社会福祉士の「事例問題」は精神保健福祉士の「条件つき問題」に当たる。
- ・「条件つき問題」は、ひとつの場面を切り取り、そこで起きている事象とそれに対応する知識や技術の理解が問われる（社会福祉士の事例問題と出題のねらいは同じと思われる）。
- ・精神保健福祉士でいうところの「事例問題」は、一定量の事例に設問が3つおかれる。ソーシャルワークが展開される文脈やプロセスを通して、そこでの知識や技術の理解が問われる。3つの設問は独立しているわけではなく、正答に向けて事例全体を文脈でとらえる必要がある問題が多い。

以上の点から、社会福祉士の「事例問題」の出題形式・内容については、その適切性を前提としたうえで、精神保健福祉士の「条件つき問題」「事例問題」との整合性も含めて検討いただきたい。

以上